

2001.07

NO.3

LETTER

目次

コミュニティとともに自然エネルギーの普及を進めるパートナーとして
・進化していく「きょうとグリーンファンド」
能村 聡 2

・むささびソーラープロジェクトの報告
・総会報告 3

・理事からの一言・深尾昌峰
・「ろうきん」の NPO 支援 4

・法然院・森のセンターでのエネルギーワークショップ報告
・夏の省エネ情報 5



特定非営利活動法人
きょうとグリーンファンド

■二号機をつける幼稚園や保育所を公募します

きょうとグリーンファンドは第2ステージに入りました。京のアジェンダ 21 のパイロット事業として実施した、法然院森のセンターのパイロット事業で培った経験を生かし、次は地域の幼稚園や保育所に今年度中に1基、設置することをめざします。

そこで、きょうとグリーンファンドでは 2001 年度にソーラー発電設備を設置していただける、京都府内の幼稚園や保育園を公募します。支援先の選定は理事会が審査して決定いたします。

もし、環境や自然エネルギーに関心をお持ちの身近な幼稚園や保育所、福祉施設をご存じでしたらご紹介ください。また、ご家族や近所の子どもさんが通園されている幼稚園・保育所に働きかけをしていただければ幸いです。提案・説明キットも用意しています。

■設置を行うプロセスについて

私たちは、設置事業というのは計画準備段階から施行、活用に至るまで、幼稚園・保育所を管理する経営者、教諭・保育士、保護者、卒園者、支援者などの関係者、施設のある地域の住民の参画と協力が大切と考えています。

そのためきょうとグリーンファンドは当事者に参加していただく協議テーブルを初期段階から設けてコーディネートします。そこでの説明、学習と話し合いを通じて、自然エネルギーに自ら率先して取り組む目的と意義を関係者の間で共有し、行動のモチベーションを高め、寄付のキャンペーン、設置工事イベントなど、実施段階における役割分担などを事前に十分話し合い、みんなの合意のもと協力して目標を達成していきます。

太陽光発電パネルの設置工事を行う日には子供達を含む関係者全員が楽しく参加して、達成の喜びを分かち合える点灯イベントを開催します。また、パネルの裏には寄付者全員の名前やメッセージを書いていただき、育ちゆく子供達の未来が持続可能で幸せな時代になることをみんなで祈念します。

■パートナーシップで市民発電所を広めよう

— 自然エネルギーをコミュニティに普及させたい — 私たちの思いを実現するためには、地域の様々な主体の理解と協力が不可欠です。

今後、市民・事業者と行政とのパートナーシップによって、地球温暖化防止と環境と共生する地域づくりを実現するために設立された組織である『京(みやこ)のアジェンダ21フォーラム』—に積極的に参画します。

「きょうとグリーンファンド」の活動理念を、コミュニティに普及させるための社会的仕組みを、コミュニティ組織や教育団体、行政、事業者とのパートナーシップによって構築していくことを目指します。

■「きょうとグリーンファンド」が

設置施設に協力すること

1. 寄付募金キャンペーンへの協力

幼稚園や保育園と合同で関係者・地域住民に対して、一口一定額の寄付を募るキャンペーンを実施。設置費用の約半額を寄付目標とする。

2. 環境学習の支援

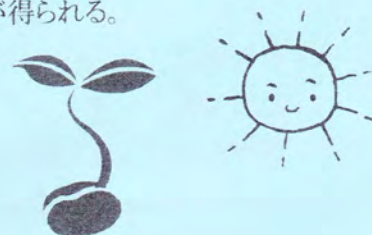
設置後も、ご要望に応じて関係者への自然エネルギーに関する環境学習を支援、学習会の企画、講師派遣、教材プログラムの提供を行う。

3. 国の補助事業の仲介

設置費用の約半額について国の新エネルギー草の根支援事業からの補助金を仲介する。

4. 設置事業の代行

寄付金を預かって太陽光発電の設置工事を代行します。専門の事業者による親切、確実、安心のサポートが得られる。



◎むささびソーラープロジェクトのご報告

むささびソーラープロジェクトは6月6日、法然院・フィールドソサイエティー・きょうとグリーンファンド三者で最後の確認を終え、無事終了しました。ご支援ありがとうございました。収支は以下のようになりました。



【寄付額】総額 …………… 2, 325千円

(237の個人・グループ・団体から寄付をいただきました。)



ご一家でそれぞれ寄付してくださった方、「母は80何歳ですが、母の名前で」と、お母様の名前で寄付を寄せていただいた方、大学生有志のグループ、〇〇周年記念にと寄付をしてくださった団体、取材に来て「私も寄付します」と言ってくださった記者さんなど、本当に様々な方々の思いが、形となりました。本当にありがとうございました。

【設置費用】…………… 3, 482千円

【NEF 補助金】…………… 712千円

【諸経費】…………… 410千円

☆「おひさま発電所」が発電した電気の代金（発電分）の一部は、次の2号機設置に向けての基金に寄付をしていただけることになっています。

森のセンターの「おひさま電気」から次の「おひさま電気」が生まれることになるのです。

◎総会報告

総会を終えて —頭の痛い、現実の話—

事務局長 大西 啓子

2001年5月26日NPOとして初めての総会を終え、事務局はほっとしたと同時に新しい年度の切羽詰った課題をつきつけられ、愕然としています。

昨年3月に準備会を立ち上げてからは、追われるようにあれこれとこなしていく日々が続いていましたが、法人格をとりさまざまな体制が整ったことで、改めてきょうとグリーンファンドの財政的な基盤の弱さが浮き彫りになってきました。

団体の活動(事業)をきちっと支えるための運営費用は、どんな団体にも必要なものですが、きょうとグリーンファンドの台所事情は昨年並みとしてもかなり厳しいものです。

ごくシンプルに運営費用を見積もっても、毎月45000円位(室料1万円/通信費・光熱費・事務費1.5万円/スタッフ交通費実費2万円)は必要で、年間54万円ほどは事務所を構えていれば何しなくてもお金が入用ということなのです。

昨今はずいぶんNPOの活動も社会的に認知されてきて、助成金などの申請先はかなり増えてきましたが、事業費充当分として認められるものがほとんどです。団体の存在そのものは、自分で支えられなくてはならない、ということなのでしょう。「自分で支える」、安定した会費収入がなければ、事業は出来ても存続そのものがかなりつらいということになります。

きょうとグリーンファンドの場合、今年の会員は41名(運営費分4000円×41名=164000円)でした。一生懸命やっていたら、どこからか「手」が伸びてきた今年の成り行きに期待をして、今年もがんばってみることにしていますが…。

つまり、「みなさん、会員になってくださいーい！」(月払い制度も出来ました。)ということなんです。よろしく願います。



ジメジメとした梅雨がやってきました。私は人一倍汗かきでこれからのシーズン、冷房が必需品の人間です。仕事場ではOA機器に囲まれ、それらに依存しています。典型的な大量消費型社会の申し子だと思っています。日常生活でも好き勝手に生活をしている人種の一人だと思います。端的に言えば、環境に優しくない生活をしていると言った方がいいでしょか。

しかし、私も含めてですが、今までの環境系の市民運動に無関心だった人の多くは「地球に優しい生活」をしたい!! と思っている人が案外多いのではないのでしょうか。しかし、取り組みを始める「きっかけ」が多くの人にとって難しいものであったり、生活実感と離れていたりという「ハードル」が高かったような気がします。

環境問題は地球規模の大きな問題です。ですから取り組みのレベルはたくさんあっていいと思います。国際会議できちんと主張するNGOは専門的な知識とノウハウを持っており非常に重要な存在です。一方で車の両輪のような存在として、市民が市民の目線で地道だけど着実な成果をあげていく草の根の取り組みも重要だと考えています。グリーンファンドの動きは世界全体、いや日本全体、いやはや京都全体でみても非常に小さな小さな動きです。でも、グリーンファンドは多くの市民のみなさんがファンドを寄せて下さっています。

「こんなことしていったってエネルギー問題は解決しない」とある人にいわれました。確かに問題解決の特

効薬ではありません。「そんなことしても無駄」と評されたこともあります。でも、こういった小さな動きを私たちは大切にしたいと考えています。この中で今まで全然エネルギー問題に関心のなかった人が少しでも関心をもってもらえれば私たちの活動は「意味」をもちます。この「意味」は高かった「ハードル」を下げる効果を持っていると信じています。

ここ数年で日本の社会は「NPO」というコトバを獲得しました。今まで反対や要求ばかりしてきた形から「自分たちで何ができるか」という発想に大きく変わってきました。市民自身が市民社会のプロデューサーの役割を担う時代がやってきました。多様な領域で多様な形態をもったNPOが今活躍しています。京都でも全国的にもユニークで先駆的な活動を行っているNPOが数多くあります。

地方分権一括法が施行され「地方の時代」が叫ばれています。しかし、まだそれらは行政の権限委譲のレベルに終始しているような気がします。これからは、地域特性や背景をベースに市民が自分たちの社会をどうデザインしたいか、そこでそれぞれが、何ができるかが問われてくると思います。そのなかで地方独自に市民レベルで様々な課題を解決するために「市民立法」的に条例の検討などをおこなっていくことなども想定されるでしょう。

グリーンファンドは今までの「ハードル」をどんどん下げて、次世代を担う子どもから高齢者まで肩肘張らず、いろんな形でいろんな人が関われる仕組みをこれからも模索していきたいと考えています。

「ろうきん」の NPO 支援

近畿労働金庫は中長期経営方針の中に「NPO 支援」を位置付け、積極的に金融機関として得意な分野を中心に様々な支援メニューを展開している。例えば全国にさきがけてNPOへの「融資制度」をシステムとして構築した。事業を展開していく上で、運転資金欠如という問題は多くのNPOが抱える悩みである。特に介護保険下で福祉サービスを提供している団体などは運転資金の確保は深刻な問題であった。加えて「特定非営利活動法人」はまだ歴史が浅く、社会的な認知や信用は必ずしも高く

ない。そのため一般の融資制度ではなかなか評価されにくく、融資の実現は非常に困難であった。そういった中、ろうきんの融資制度はNPOにとっては朗報となった。

この他にも「NPO 寄付制度」をつくり、「ろうきん」の口座からの引き落とし手数料を無料にし、NPOへの寄付を促進していただいている。また、「パートナーシップ制度」というろうきんの顧客にNPOへのボランティア活動を促す仕組みも用意されている。今後も、金融機関だからこそのNPO支援に期待したい。

事務局より

上記『ろうきん・NPO 寄付制度』の適用を「きょうとグリーンファンド」も受けています。詳細についてはお問い合わせください。



法然院・森のセンターでのエネルギーワークショップ（参加体験型学習会）の報告

私達はNPO団体「環境市民」で、環境教育を主体に活動している“SKIP”というグループです。さる6月17日、今年3月に「おひさま発電所」が設置された法然院・森のセンターで、エネルギーに関するワークショップを、「きょうとグリーンファンド」の呼びかけで開かせていただきました。

当日は、子供を中心に15人程度の参加者が集まり、身の回りの電化製品の絵を描いたり、電気がどこからやってくるのかを考えたり、エネルギーと地球温暖化の関係を知ったり、ソーラー発電を体験したり、電気の使い方を考えたり、と盛りだくさんの内容に取組みました。

お日様のご機嫌が悪く、ソーラーパネルでの実験が予定通りできなかったのですが、参加者には、電気のこと、自然エネルギーのことについて考えるきっかけを持ってもらえたのではないかな、と思っています。

私達も今回の経験を踏まえ、より良いワークショップ作りに励んでいきますので、今後ともどうぞよろしくお願いたします。今回はこのような機会を与えていただき本当にありがとうございました。



(写真:みんなで描いた絵をみながら、話あっているところ)

[環境市民SKIP 一同]

夏の省エネ・情報

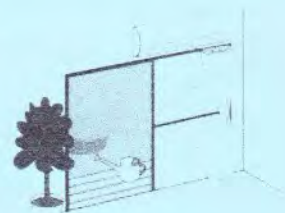
【エアコン】

■エアコンは使っていないくとも待機時消費電力が1日62Wh使われています。

春や秋の使わない季節はコンセントからプラグを抜いておくことが省エネルギーのコツです。



- 夏の設定温度は28℃を目安にしましょう。
- こまめに、掃除する。
- 室外機のまわりに物を置かない。
- 窓にすだれやブラインドを掛ける。
- 冷房をつけている部屋はドア・窓の開閉を少なく。
- 二重サッシ断熱サッシ等の利用
- 雨水を利用した散水で涼しく。
- 樹木で日差しの調整。
- 自然通風を上手に利用しましょう。



インバーター方式に注目。

気温にあわせて効率よく運転するインバーター方式エアコンに注目。温度調節の手間も、消費エネルギーも省けます。また建物の構造や部屋の広さは、エアコン選びの大切な要因です。最も重要なチェックポイントはCOP値の比較。COPとは、消費電力当たりの冷房・暖房能力を示す数値、エネルギー消費効率を表しています。数値は大きいほど、エネルギー効率が良いといえます。

- 5年前に比べ、約30%の省エネ化が進んでいます。

〈冷暖房兼用・壁掛け型・冷房能力2.8kWクラス・省エネ型の代表機種種の単純平均値〉

[省エネルギーセンター ホームページより]

ぐりふあん日誌

- 5.1 ・事務局会議
- 5.7 ・第4回理事会
- 5.26 ・第5回理事会、第1回総会
- 5.29 ・事務局会議
- 6.4 ・第6回理事会
- 6.6 ・むささびソーラープロジェクト最終会合
(法然院・森のセンターにて)
- 6.17 ・自然エネルギー教室開催
(法然院・森のセンターにて)
- 6.18 ・むささびソーラープロジェクト終了報告・
お礼発送
- 6.25 ・事務局会議



☆きょうとグリーンファンドのメンバーになるには？

- ◇**会員**は、会費をおさめ会の運営を支援します。「NPO 法人社員」にあたります。
- ◇**サポーター**は、ファンド(基金)への寄付のみの参加です。

I. まず、会員かサポーターかをお選びください。(入会申し込み書は事務局まで)

会員	10000 円/年	6000 円は基金への寄附分、4000 円は会費として使われます。
サポーター	6000 円/年	5000 円は基金への寄附分、1000 円は通信費として使われます。

II. 次に、払込みの方法をお選びください。

郵便振替 (年払い)	☆下の口座に直接振り込んでください。年1回(入会月) [郵便振替口座 00930-6-157817 きょうとグリーンファンド]
郵便局からの 自動払い (年払い)	◆会員…年1回 10000 円(入会月)が引き落とされます。 ◆サポーター…年1回 6000 円(入会月)が引き落とされます
郵便局からの 自動払い (月払い)	◆会員…年1回 4500 円(入会月)と、月々 500 円が引き落とされます。 ◆サポーター…月々 500 円が引き落とされます。

□**ろうきん口座**からの自動払いの方法もあります。この場合手数料はかかりません。詳しくは事務局にお問い合わせください。

特定非営利活動法人きょうとグリーンファンド

事務局

〒604-0932 京都市中京区寺町二条下ル妙満寺前町 446 ワカバヤシビル 3 F
京都プロボノセンター内 (月~金 11:00~16:00)
TEL/FAX : 075-241-0550 , E-mail : grifan@h7.dion.ne.jp
: kyoto-gf@npo-net.or.jp
ホームページ URL : <http://www.h3.dion.ne.jp/~kyoto-gf>

